

# 第83回 CPD セミナー・公開講座・防災講演会・見学会(香川)

四国本部 事業委員

丸山 正

MARUYAMA TADASHI



## 1. 概要

2022年12月10日(土)、高松市のレグザムホールにて、第83回CPDセミナー・公開講座・防災講演会を、また翌11日(日)には高松市内にて見学会を開催した。

土曜日の参加人数は35名、日曜日の見学会は14名で、コロナ第8波が心配される中、多くの参加者を迎えることが出来た。またWEB中継も行い、数名の参加があった。

表-1 プログラム

### 1. CPD セミナー(13:40~14:40)

演題:「近畿本部が進める企業連携とその将来」

講師:河野 千代氏(近畿本部副本部長)

### 2. 公開講座(14:50~15:50)

演題:「地方創生・地域活性化に向けた取組~高松市のまちづくりについて~」

講師:岡田 光信氏(高松市都市整備局課長)

### 3. 防災講演会(16:00~17:00)

演題:「レジリエントな地域社会を創造するために」

講師:野本 粹浩氏(香川大学特命教授)

### 4. 懇親会(17:30~19:30)

(1)開会挨拶 副本部長 末澤 等氏

(2)中締め 総務委員長 谷脇 準蔵氏

### 5. 見学会(11日 9:00~12:00)

場所:高松丸亀町商店街、高松玉藻城

## 2. CPDセミナー



写真-2 河野氏ご講演

最初に技術士会近畿本部副本部長の河野氏から企業連携に関する紹介があった。河野氏はまず、様々な関係者に困りごと・要望をヒアリングし、その中から課題を仕分けし、技術士の地位向上、活動の場を広げることに取組まれた。多彩な専門技術者を抱える技術士という特性に着目し、建設業界にどのように生かせるかということを考えている。最初に有識者委員会のような枠組みでの参画に挑戦したが、思うようには成果が得られず苦労していることが紹介された。

ほかには技術士が業務を請け負うためのポータルサイト“よろず相談所”の設置、近畿本部の関西万博共創パートナーへの参画等々、多彩な活動を行っている。いろんなところに出かけ、人の話をよく聞き、考えて行動する仕事のやり方は技術士のあるべき姿と思った。

河野氏は技術士会ではよく知られた方であるが、経歴はユニークで、技術者という世界では、いわゆるヨソモノのような立ち位置と思われる。逆にそのような他者・俯瞰した立場から技術士を見て行動しているのでユニークな成果が出ているのではないかと感じた。



写真-1 古野本部長挨拶

### 3. 公開講座

公開講座では高松市都市整備局の岡田課長より高松市のまちづくりについて紹介があった。岡田氏は建設部門の技術士でもある。



写真-3 岡田氏ご講演

高松市では人口減少に対応するコンパクトで持続可能な街づくりの方針のもと、中心部の再開発、機能強化に取り組んでいる。直近の事業では屋島山上の交流拠点施設”やしまーる”の整備、および新体育館を中心としたサンポートエリアの整備について紹介があった。また全国的に有名な高松丸亀町商店街再開発も紹介された。商店街のうちドーム広場、丸亀町グリーンはよく成功事例として紹介されるが、すべての街区が同様に開発出来てはいないこと、また隣接する商店街の衰退など課題が依然としてあることも分かった。

ほかには中央公園再開発、鉄道を基軸としたバス路線の再編による交通ネットワークの再構築、地理空間データ基盤の構築などこれからの各種取り組みも紹介された。

### 4. 防災講演会

今回、防災講演会と題して香川大学の野本先生より「レジリエントな地域社会を創造するために」と題して講演頂いた。野本先生は昨年まで国土交通省に在職し、おもに四国地方整備局で河川・ダム事業に長く取り組んでおられた。また東日本大震災ではその後の復興事業に参画し、その知見も踏まえての講演であった。

復興支援事業に関しては災害仮設住宅の実情の紹介があった。南海トラフ地震では、例えば高知県は独自ですべての仮設住宅が用意はできず、県



写真-4 野本氏ご講演

をまたいだ支援が必要になるとのことであった。仮設住宅は生活基盤、特に働く場所の復旧を考えると、元の位置に近いほうが望ましいが、それもむつかしい現状が分かった。

また東北の被災地域、四国の被災想定地域の年齢別人口構成およびその推移を紹介しつつ、とくに働き手・今後働き手となる若年・壮年層の人口の推移が復興の進展・あり方と大きく関係があることも紹介された。地方では総人口の減少以上にこの年代の減少が著しく、復旧・復興の最も留意すべき課題であるとのことであった。四国は高齢化先進地域であるので大地震級の災害があった時、単純に元に戻すとか、良いものを作るとかでは問題は解決しない。復旧・復興の在り方を前もってよく考え、住民・行政が議論しておく必要があると思った。



写真-5 会場から見る瀬戸内海

### 5. 懇親会

懇親会はレグザムホールのレストランで行った。末澤副本部長の挨拶・乾杯で始まり、谷脇総務委員長の中締めまで約2時間歓談することが出来た。

久しぶりのリアルの懇親会でみんなの笑顔が印象的であった。



写真-6 乾杯・中締め



写真-7 講師を囲んで

## 6. 見学会



写真-8 岡田課長による商店街案内

2日目の見学会では前日の講演も含め、岡田課

長が高松丸亀町商店街をご案内いただいた。

壱番街前ドーム広場付近のA街区から丸亀町グリーンG街区まで、7街区に分かれる。自転車の乗り入れの規制が行われ、街区ごとに特性が異なる。公共空間と一体となった回遊性が確保され、以前の商店街の雰囲気よりも様変わりしている。



写真-9 令和4年に復元した桜御門

高松丸亀町商店街の見学後、高松城跡玉藻公園を見学した。ボランティアガイドさんの親切なご案内により、複数班に分かれ、散策した。桜御門は国宝になる寸前、高松空襲で焼失したが、今年復旧した。

披雲閣は、桜御門から少し離れた石垣（写真-9奥）によって守られ、焼却しなかった。昭和天皇が皇太子時代に宿泊されたことがあるなど、ガイドさんから多くの逸話を学べた。当日は幸いにも、桜の馬場にて鉄砲隊の演武が行われた。

## 7. おわりに

コロナ第8波の影響が心配事項ではあったが、関係各位の支援の下、セミナー・公開講座・講演会と見学会、フルセットでの例会を実施することが出来た。

また講演会では質疑も活発で講演者・参加者ともに有意義なものとなったと思う。次回以降も会員にとって魅力的な例会を企画していきたいので、引き続き関係各位のご協力・ご支援をお願いした。また講演会では質疑も活発で講演者・参加者ともに有意義なものとなったと思う。次回以降も会員にとって魅力的な例会を企画していきたいので、引き続き関係各位のご協力・ご支援をお願いした。

以上